

書道研究書苑会々長

追悼 鈴木静村先生

本会々長（書道同文会名誉会長・日本蘭亭筆会顧問・書道叟幽会代表・静學舎代表）鈴木静村先生は十一月十二日永眠致されました。（九十二歳）二十日通夜、二十一日葬儀・告別式が東京都調布市の仙川会館において厳粛に執り行われ、ご遺族ご親族始め同文会、書苑会、書道関係者、出版社の方々、さらに一般の方々、両日併わせ三百余名が全国から参集し告別のご焼香を賜りました。以上、生前のご厚誼とご協力を深謝し、謹んでご報告申し上げます。

書道研究書苑会 主幹 高橋香樹



鈴木静村 略歴

大正十二年（一九二三年）静岡県下田市に出生。県立豆陽中学（現下田北高）を経て東京府大泉師範（東京第三師範）、國學院大学卒業。田邊古邨先生に師事。松本洪先生に漢文受講。

文部省検定習字教科書・小学校編（秀英出版刊行）執筆。文部省習字教科書調査委員。書道同文会事務局長・理事長・参与・会長を歴任、現名誉会長。日本蘭亭会顧問。書道研究書苑会々長。書道叟幽会代表。静學舎代表。

書苑会略歴

昭和二十六年 春季昇級試験かな部推薦合格

二十八年 学生書苑創刊号（二月号）より学生部審査員

三十三年 書苑審査員兼任

五十八年 四〇〇号（六月号）にて主幹

十二月号より条幅部学び方解説、半紙漢字部かな部の手本図版解説開始

四月号より書話開始

五十九年 フランス・スイスにて「書字ふるさと」

書道展開催

平 成 三 年 五〇〇号記念誌上展（十月号）

四 年 鈴木静村近作書展（八月十一日～十六日）
書苑会後援

五 年 第一回条幅実践講座（平成十一年九月まで十四回担当）

鈴木静村先生は、主幹として二十八年、会長として十年の長きにわたる「書筵・学生書筵」の充実と発展に尽力されました。先生は昭和二十六年の春季昇級試験かな部において「書筵」推薦合格第一号。「書筵」の歴史は先生の歴史そのものといっても過言ではないと思われまふ。先生の「書筵会」に対する気概の程は、より強く、より快く受け止め今日に至って居りました。ここ一年は、病氣療養中ではありましたが、八月にお見舞いに伺った時は思いの外お元気で、また一緒に審査が出来る日があるのではと思っておりましたが、十一月十二日早朝、まさに信じられない悲報にただただ慟哭するばかりでした。

昭和五十八年から平成二十七年の間「誌上展」五回。また、平成二年、創立四十周年記念展（渋谷・東京プラザホール）。十二年に「五十周年記念展」（朝日生命ギャラリー）。二十二年には「六十周年記念展」、「静村・香樹近作二人展」（上野の森美術館）を開催。多くの会員に希望を与えました。五年から会員相互の交流の場として「全国書筵の集い」を。その間、十七年と二十六年には自ら講師を買って出られ講演会は好評を博しました。「条幅実践講座」は五年より十一年まで講師を担当。会員の意欲向上に大いなる成果を上げられました。又、二十四年には「漢字かな交じりの書」部門を創設。これは先生永年の悲願でもあり、ご自身で手本、審査を行ない渾身の力を注がれました。

先生の業績はあまりにも多く誌面の関係で一部に限らせて戴きましたことご了承願います。心より先生のご冥福をお祈り申し上げます。 合掌

— 高橋香樹 —

第一回全国書筵の集い開催

八年 平岡華雪十三回忌誌上展（八月号）

十二年 六〇〇号記念誌上展（二月号）

書筵会創立五十周年記念展（九月一日〜三日）於朝日生命ギャラリー

十七年 第十三回全国書筵の集い講師（七月十八日）

演題「書話」

七月より会長、主幹を兼任

二十年 七〇〇号記念誌上展（六月号）

書筵会創立六十周年記念展 静村・香樹近作二人展（七月十四〜十七日）於上野の森美術館

二十四年 会長専任 漢字かな交じりの書部門新設（一月号）

二十六年 平岡華雪没後三十年記念誌上展（三月号）

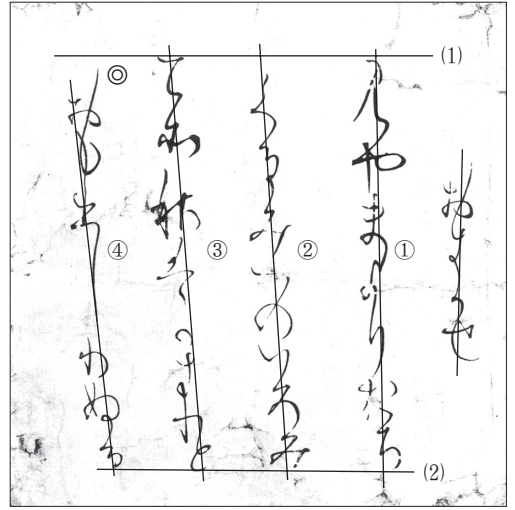
第二十二回全国書筵の集い講師（七月二十一日）

演題「永年の歩み 書筵の漢字かな交じり書」

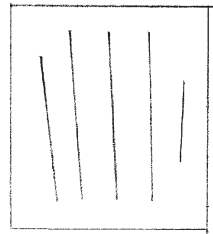
二十七年 夏幽会 鈴木静村と十四人の書展（七月二十八日〜八月二日）書筵会後援



◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円



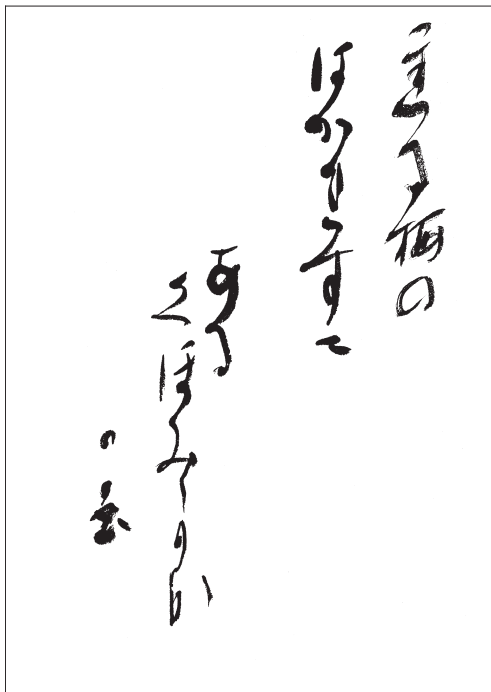
寸松庵色紙



骨組み

- 1、字句||お支可せ 見やまより於ち久るみつのいろみて所秋盤可支利とおも悲し利ぬる
- 2、形式||半紙をたてにし、下方を7cmほど切り取った(又は折った)ものに、作者名も含めた五行を書く。落款は○○臨と、五行目に添うように入れる。
- 3、概観||これまで三色紙の一つである寸松庵色紙について、大きく臨書して筆使いやさまざまな連綿の仕方、運筆のリズムを学んできました。これからは、美しい散らし書きについて学んでいきます。数ある作品の中から、基本的なものを臨書していきます。
- 4、学習のポイント(散らし書きの妙を学ぶ『その一』)
 - (1)行頭を見る
 - 。うたの行頭はほぼ同じ高さである…(1)
 - 。最後の行の「お」の書き出しは下がっているが、「も」へ続く最終画は思い切った高さをもっている…◎
 - (2)行脚を見る
 - 。一番下に置かれる文字を小さく目に書きながら、下は一線にそろえている…(2)
 - (3)行間を見る
 - 。①と④に見られる行間は、②と③に見られる行間より少し狭くなっている…
 - (4)行の傾斜を見る
 - 。左から右下へと書き進んでいる。すっきりとした連綿にするため、前の文字の終わりに近いところから次の文字が始まっているためである。
 - 。骨組みをスケッチしてみると、右記のようになる。

半 紙 課 題 (予 告) (二月二十二日締切)



平岡華雪先生書 散る梅の掃かぬにある窪みかな(高濱虚子)

訳：悟れば三界(欲・色・無色)に縛られぬ。



平岡華雪先生書 身の三界の外に横たう。(普燈録)

推薦合格授賞式に出席して

小林 崇 華

秋晴れの穏やかな十一月十一日、書廷会本部にて秋季推薦合格者の授賞式を開催して頂きました。鈴木静村会長は、ご体調の関係でご欠席でしたが、高橋香樹主幹、平岡不二子先生ご臨席の下、授賞式が行われました。高橋先生より一人一人に立派な賞状とお品を頂き、記念撮影後、実際に作品を見ながら、各受賞者より一言ずつ、書作での苦労した点などのお話しを伺いました。

その後、高橋先生より作品の講評、作品作りでのポイントについてお話があり、多くを書く事も必要だがそれ以上に、自身の作品を掲げて自ら問題点を判断修正した上で改善していく事が重要であると言われ、落款印の大切さ等、身の引き締まるお言葉に、今後更にも精進していく気持ちを更新に致しました。

当日は事務局の方々には大変お世話になりました。最後に私事になり

ますが、今回推薦をいただきましたこと、そして現在高橋香樹先生の下で勉強できます事も、今年五月に急逝された田中稼華先生の温かなご指導のお蔭であり、この場をお借りして先生への報告とご冥福をお祈りしたいと存じます。有難うございました。



研究部への積極的出品を

研究部は、本会の高位段階に当たる「推薦・準推薦・推薦格」者が、より深く、より密度の濃い学書に取り組めるよう、主体的・意欲的に自己開発を推進できる場となっています。出品有資格者は奮って研究部にチャレンジしてください。

対象 推薦・準推薦・推薦合格者（同人、準同人も歓迎）

課題 「研究部課題」として活字で提示

締切り 毎月二十二日

審査 二名の審査員による採点方式

発表 得点上位から秀逸、佳作を選び、作品の写真を発表し、他は

名簿欄に掲載

年間賞 年間を通じての優秀者には「書廷大賞」並びに「書廷準大賞」

を授与し賞揚する。

部門賞 漢字部門賞（漢字課題五回出品者対象）

かな部門賞（かな課題五回出品者対象）

特典 年間賞、部門賞取得者は同人、準同人並びに学生部審査員への道が開かれる。なお、準推薦でこの賞を授与された者は、

推薦へ、推薦格では準推薦への昇格資格者とする。

出品料 九二〇円

お知らせ

今月の課題（15ページ）で平成二十七年度の研究部は終了します。来月号から平成二十八年度の新たな研究部がスタートします。秋季定期昇級試験で初めて準推薦・推薦格に合格した方も奮って出品してください。

一字書（二月二十二日締切）

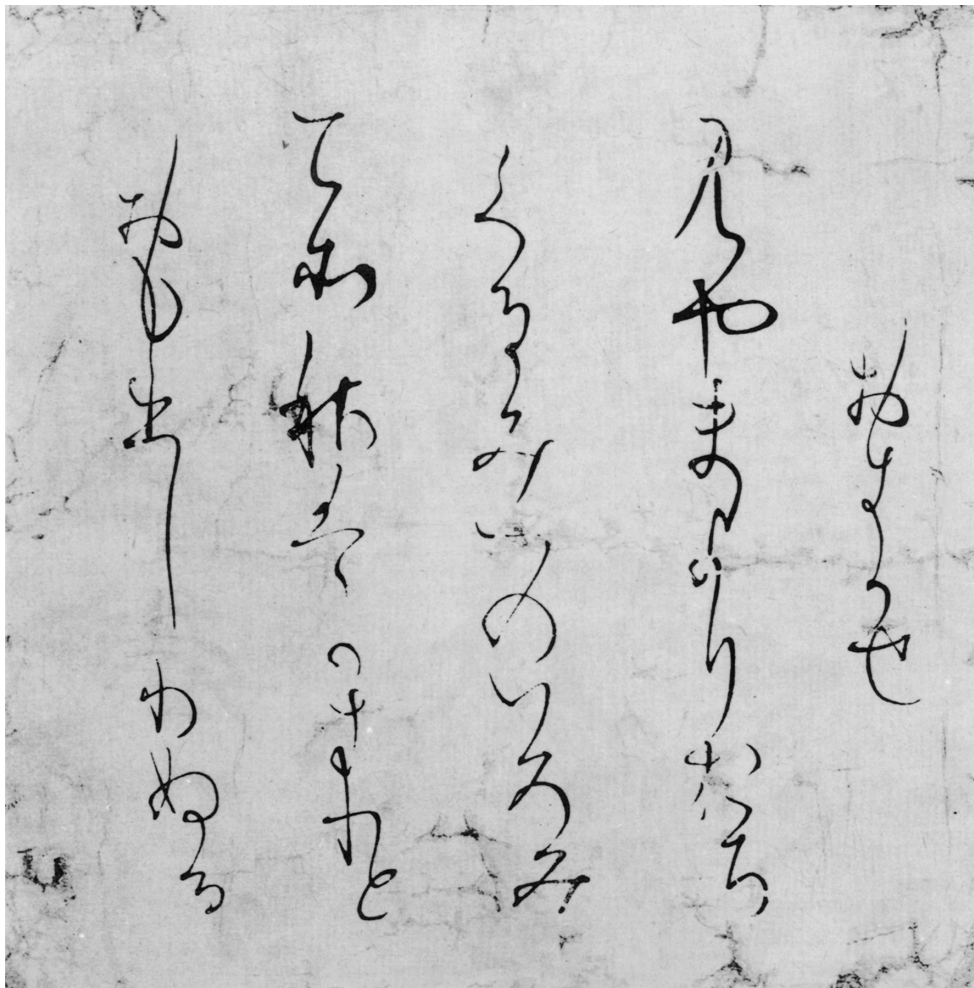
課題

聲

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ・ヨコ自由
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円

創造力を働かせて表現を楽しんで下さい。多くの会員がチャレンジしています。

紙色庵松寸

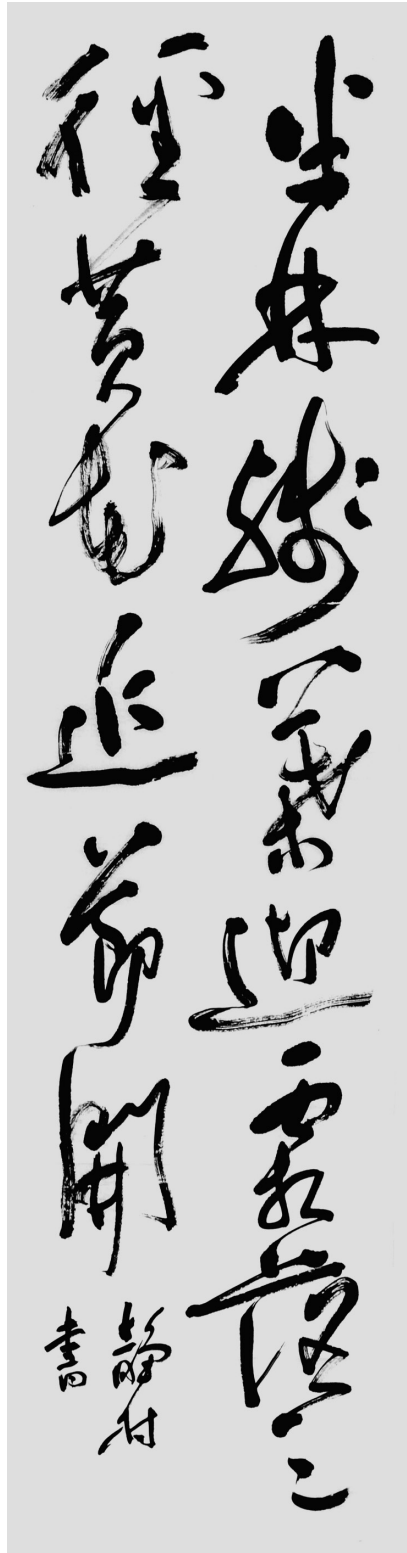


※随意部参考（条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。
随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

A

鈴木静村書

半林残葉迎霜落 三径黄花近節開(牟融)



B

高橋香樹主幹書

半林 半の末筆から林のタテ画への入筆がポイント。中心を外して左へ。左右の払いで字幅。残 中央のタテ画の反り大切。点は右肩の余白を考え二つ。一つでもよく、なくともよい。葉 上部を大きく。迎 之繞で字幅。霜で墨、落 直線的で字幅。三 小さくして傾け、三横画に変化。径 字幅で半に対応。花 左回りの回転、ねじれ用筆を的確に使う。点は高く舞う如く。近 墨継ぎ。迎の之繞との変化。節から開への入筆に留意。



先月は連綿線を多用しましたが、今月は連綿なしの単体作としました。連綿なしといっても、意連綿(目に見えない気持ちのつながりが保たれていること)を心懸けました。意連綿は次字の一画目まで書くことにより気持ちがつながります。墨継ぎは「霜」と「華」。「花」は「華」で書きました。

訳：林の中の残った木の葉が霜にかかって落ち、重陽の節句が近づいて庭の菊の花が開く。

予告 (二月二十二日締切)

蘭陵美酒鬱金香 玉腕盛來琥珀光(李白)

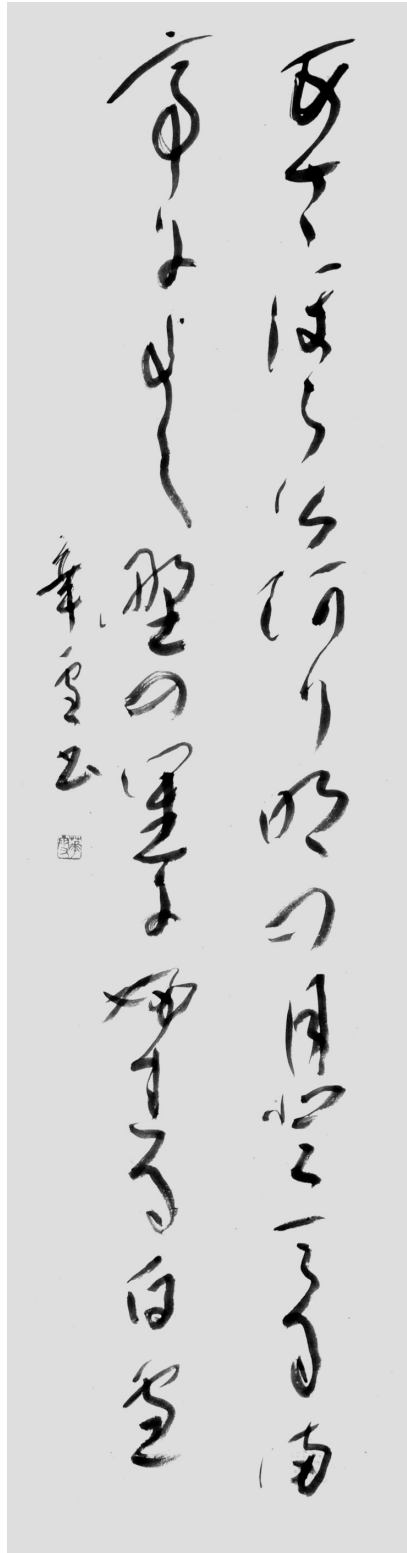
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

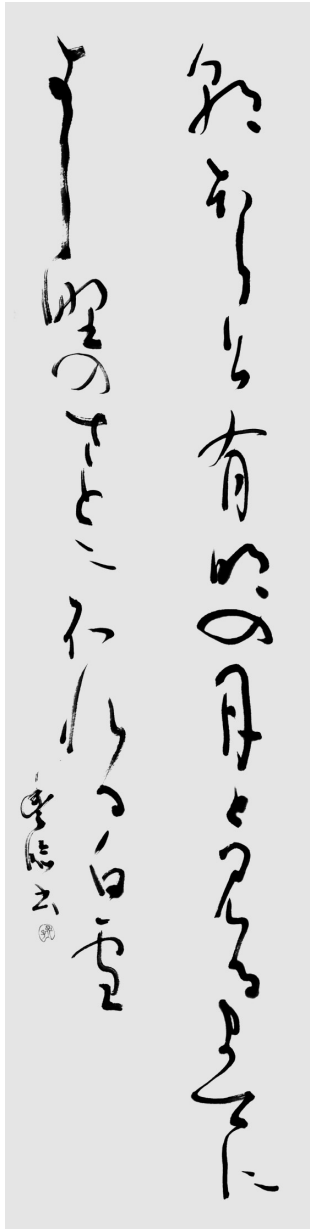
あさぼらけ有明の月と見るまでによしの、里にふれる白雪（古今和歌集 坂上是則）
あさほらけ阿り明の月登三満亭尔よし野の里尔婦連る白雪



B

吉原豊臨先生書

朝本はらら介有明の月と見る末まてによし野のさと二に不ふれる白雪



学び方

今回の華雪先生のお手本は、今までと比べて連綿が少なく、一字一字がはっきりとわかりやすく書かれています。また、字全体がゆったりとして、漢字が少ない為（明月里白雪）半切いっぽいに上から下まで紙面を使っています。一行目は幅の広い字が多く「ら」「り」「三」が少し細め、その分二行目で行間を考え、「尔よし」、「尔」、「連る」では幅を抑えています。墨の色も全体に濃く、潤の方が渴をうわまわっている感じですね。

百人一首の中で有明の月を詠った作品は、21、30、31、81番の四首です。「有明」は、広い意味で「夜明け」という意味です。夜から朝に至る時間帯の微妙な移ろいや空の色の変化を感じとってきた日本人の感性が伝わってきます。少し薄めの墨色で流れるように書きたかたですが、まだまだ難しいですね。

坂上是則は生年不明、九三〇年没。大和権少

掾から加賀介へと出世した。三十六歌仙の一人。

この歌は是則が延喜六年の冬、吉野の山の近くの宿に泊まり、夜明けに目を覚ました時、外がほのかに明るいので「夜明けの月だろうか」と思っていた。純白の雪を月の外を見ると、白い雪が降っていた。純白の雪を月の白い光に見立て、幻想的で輝かしい雪景色を詠っている。

予告 (二月二十二日締切)

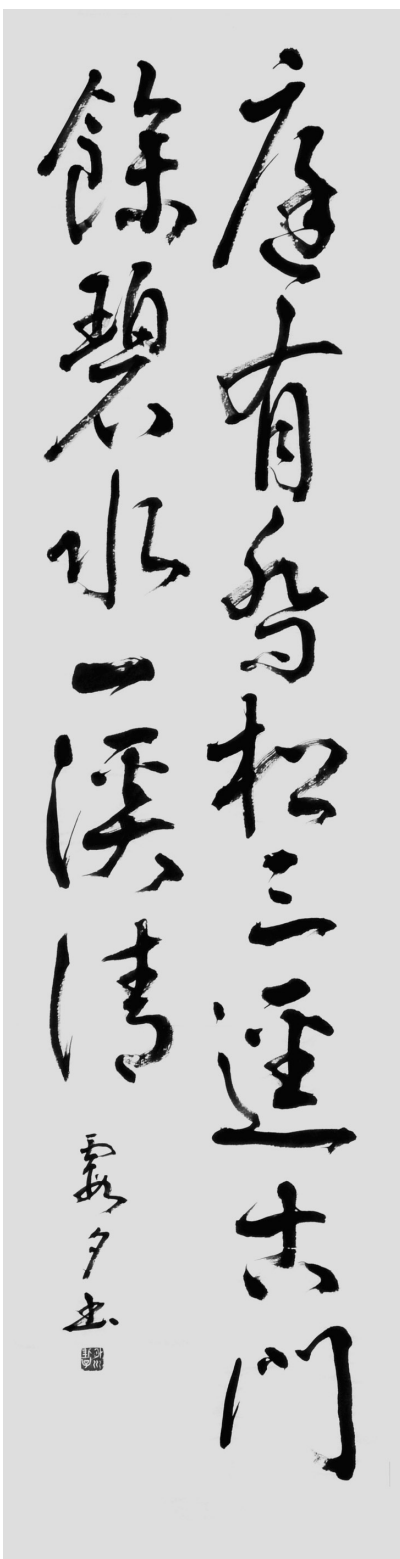
風ふけばよそになるみのかた思ひおもはぬ浪になく千鳥かな (新古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- ・二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

条幅部 随意参考

外川霞夕先生書

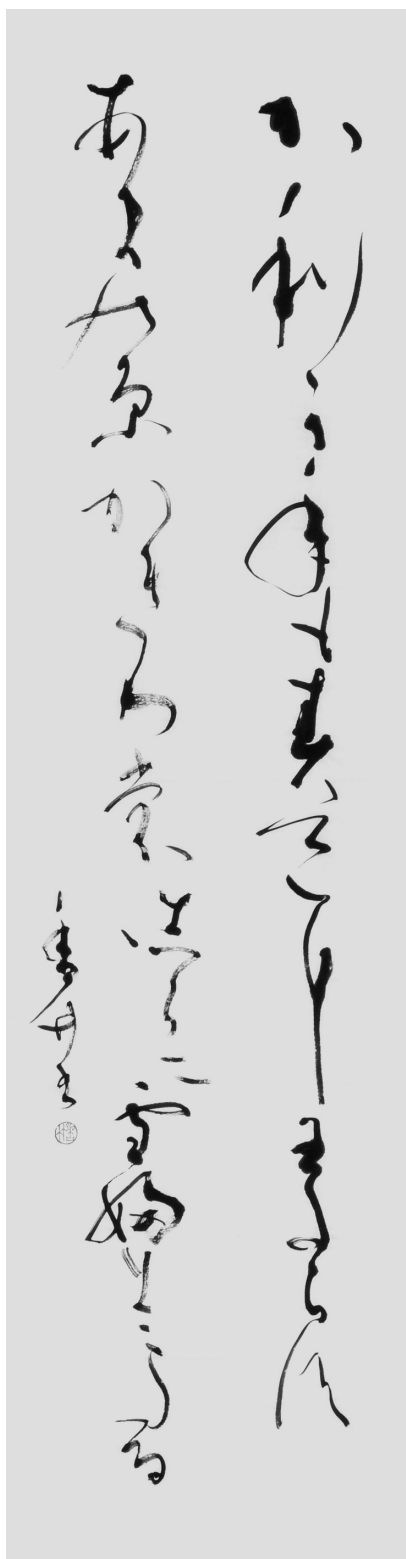
庭有喬松三逕古 門餘碧水一溪清 (李光基)
庭に喬松有り三逕古く門は碧水を余して一溪清し。



訳：庭には高い松の木が生じて三すじの小路は古び、門前には碧水を通じていて谷川が清い。

青柳香竹先生書

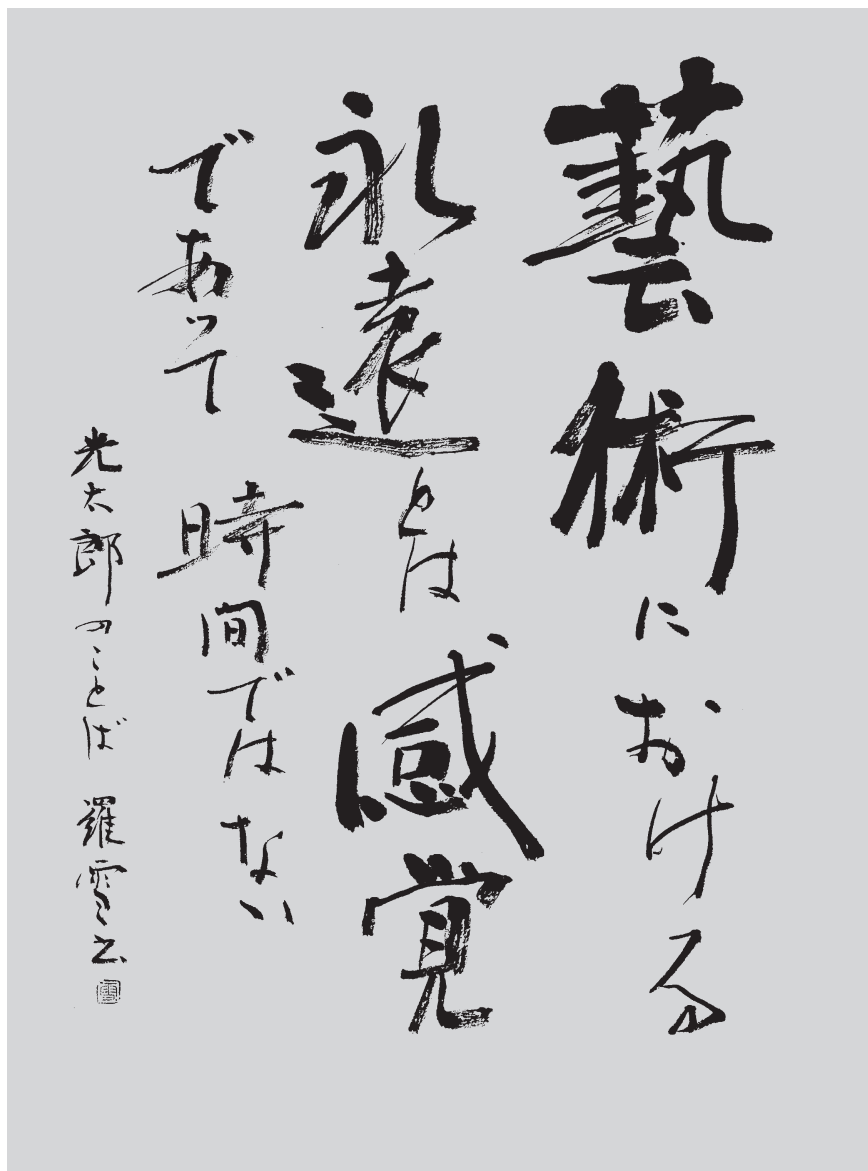
かりがねも既にわたらずあまの原かぎりも知らに雪ふりみだる (齋藤茂吉)
カリ可年も春て耳王多ら須あ未能原かき利裳志ら二雪婦り三多る



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

杉浦羅雪先生書

高村光太郎秀作批評文集『美と生命』後篇「芸術上の良知」の一節です。美と生命をメインテーマとして芸術の起原は生命そのものへの驚異感が芸術を生み出すという思想を意味しています。好きな言葉を心に響く表現をするとき、その言葉の感動を膨ませてイメージするのです。そこに視覚的なイメージが加わって文字の姿として現わすのが表現です。



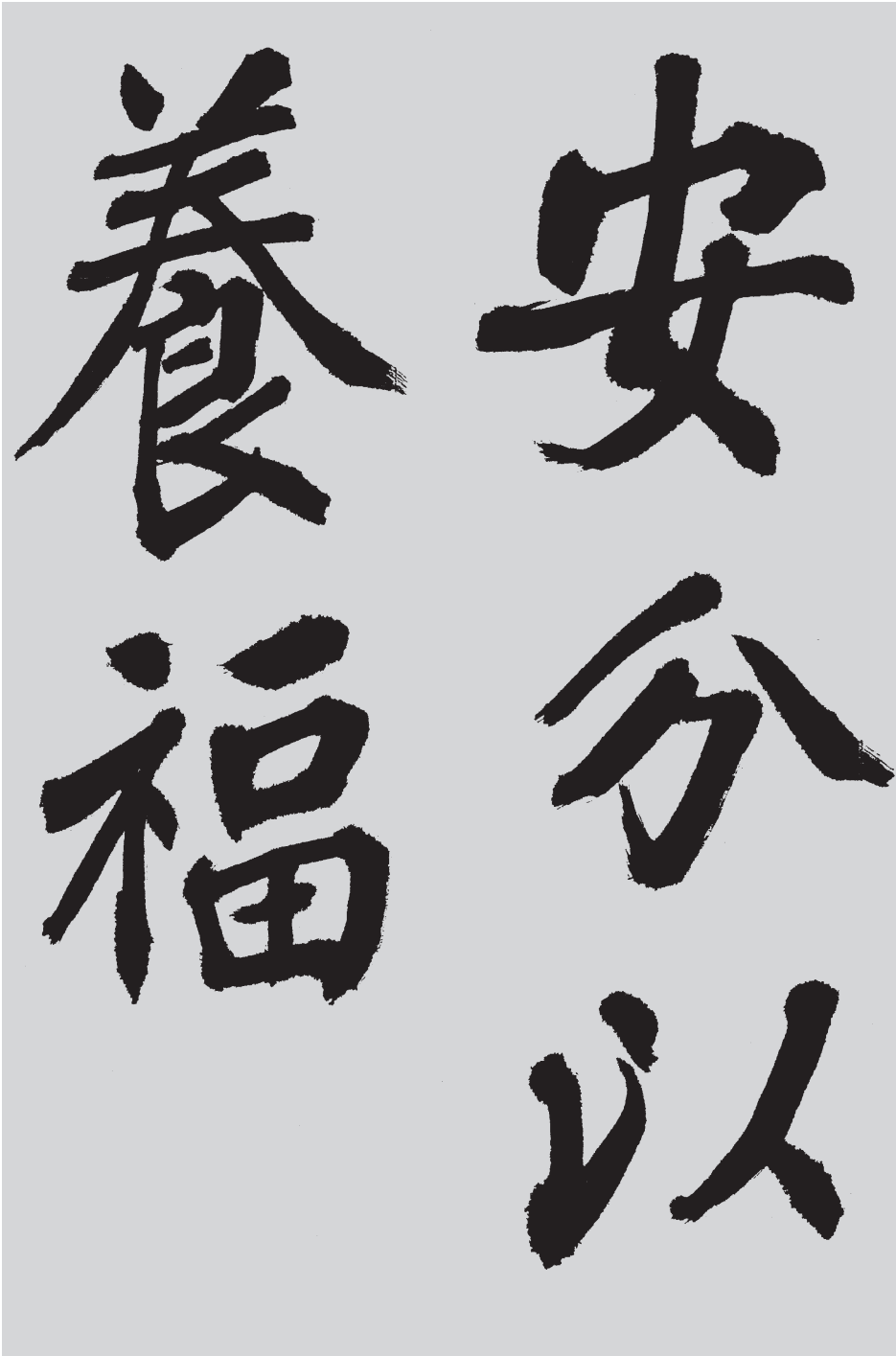
課題

芸術における永遠とは感覚であって、時間ではない。

高村光太郎 (一八八三年～一九五六年没)
詩人、彫刻家、洋画家、評論家。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

分に安んじて以て福を養う(蘇軾)
訳：自分の分に安んじて福德を養う。

〔古典を的確に〕
「安」の冠の書き方、古典では殆どこの字体、「以」欧陽詢の書体に多い。古典に精通のこと。鋒先の喰い込み練習を。

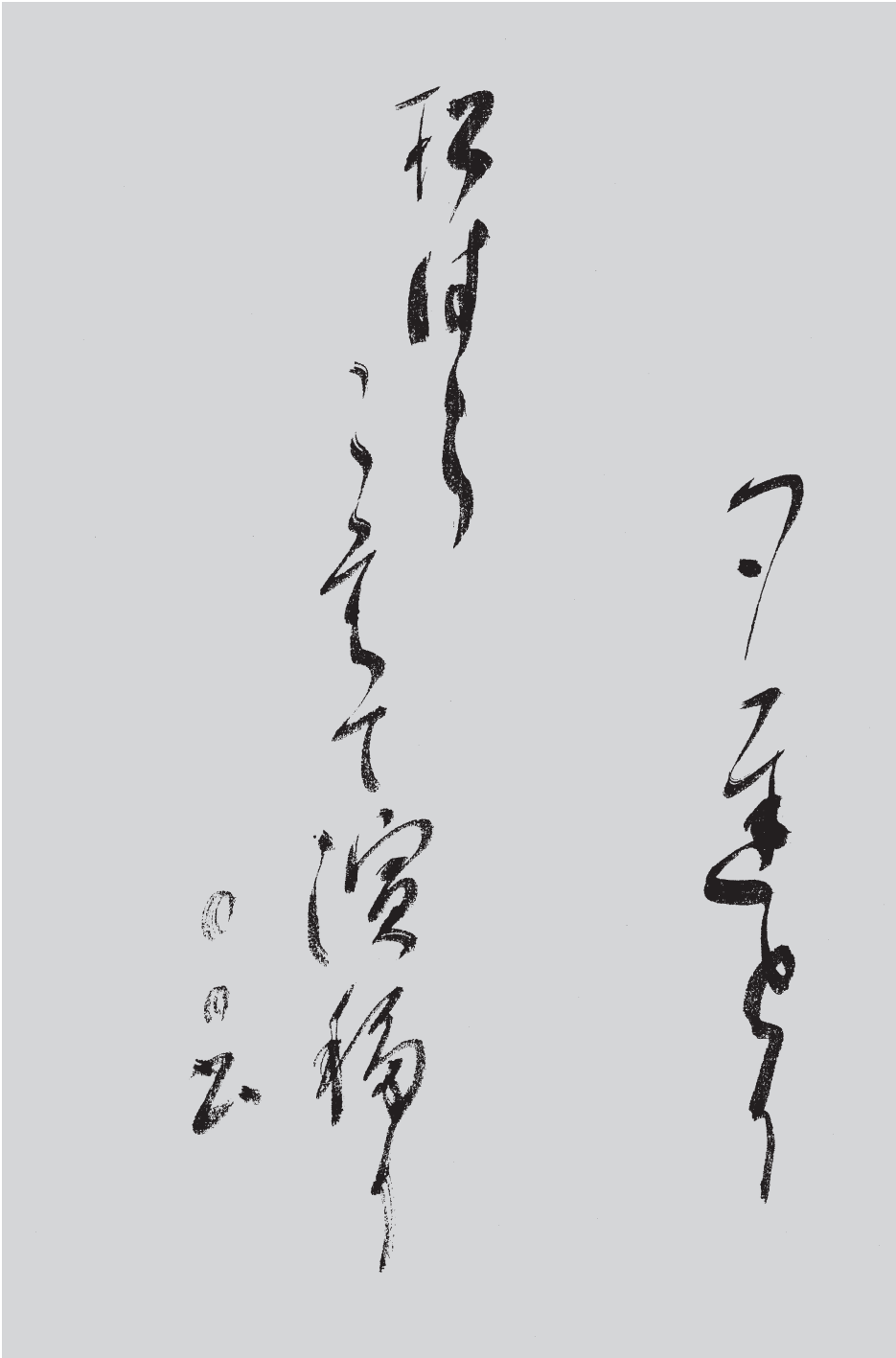


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

夕千鳥松原越えて濱移り(花蓑)
夕遅^ちとり松はらこ衣^えて濱移り



〈連綿用筆の基礎に注意〉

初歩の方は、遅ーとーり、こーえーての用筆に注意して下さい。連綿の基礎用筆の一つです。鋒先が画の終りまでいき連綿しています。下の例は鋒先が画の途中から出ています。注意して下さい。



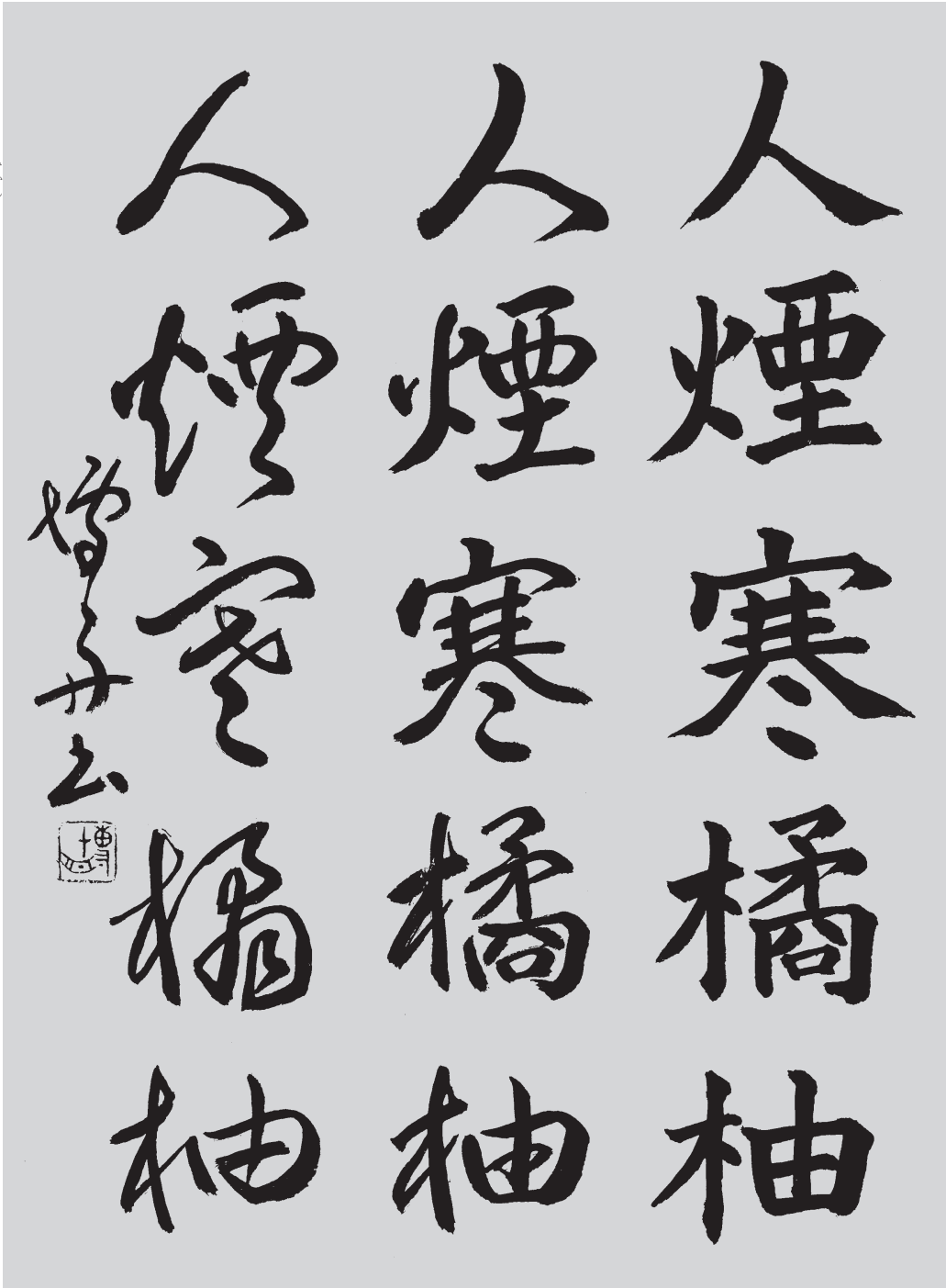
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

楷、行、草、三 体 参 考

北 沢 博 舟 先 生 書

人煙寒橘柚 (李白)
じんえんさつゆうさむ
人煙橘柚寒く

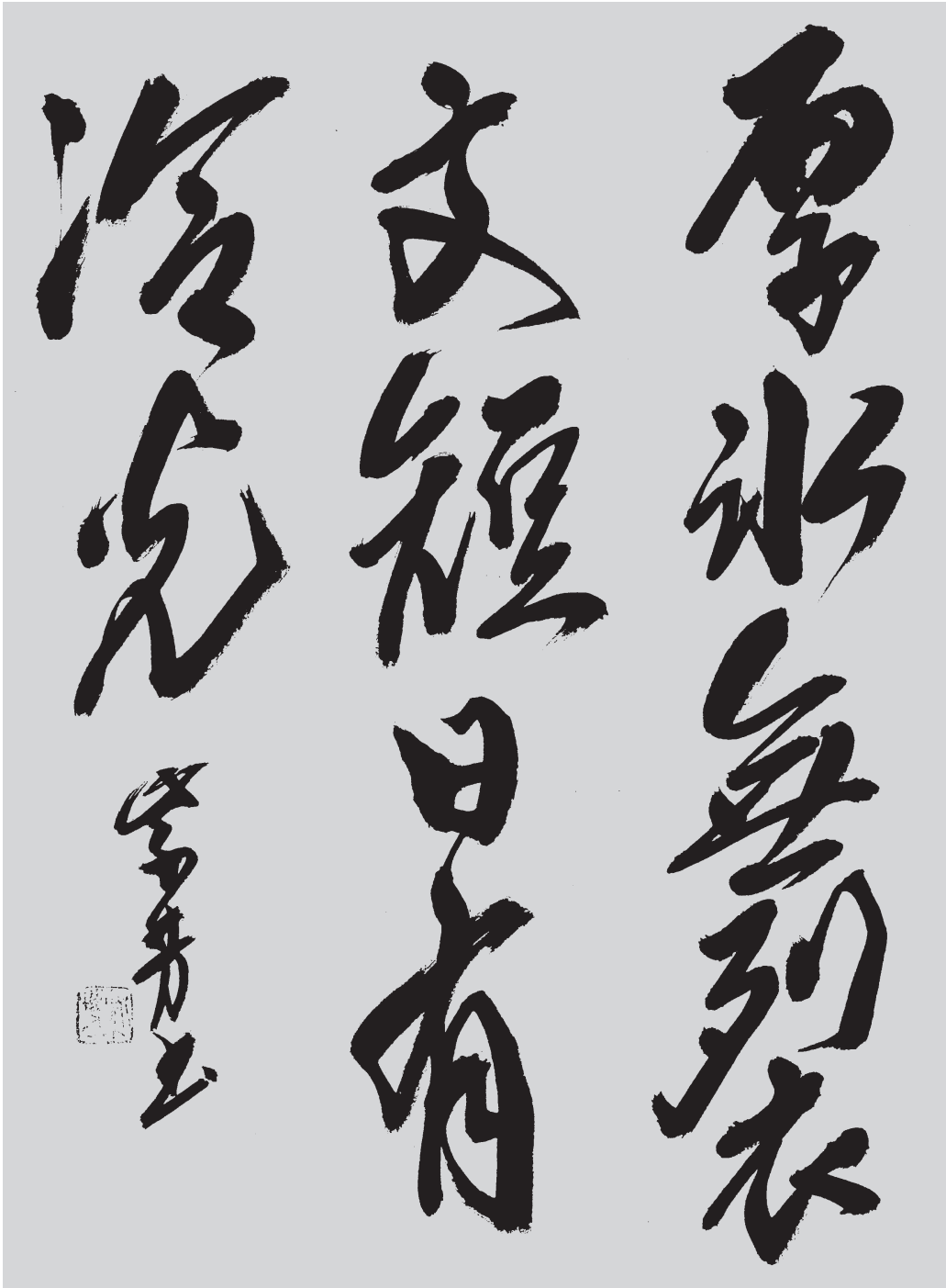


1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

高橋紫芳先生書

厚水無裂文 短日有冷光（孟郊）
厚水裂文無く、短日冷光有り。



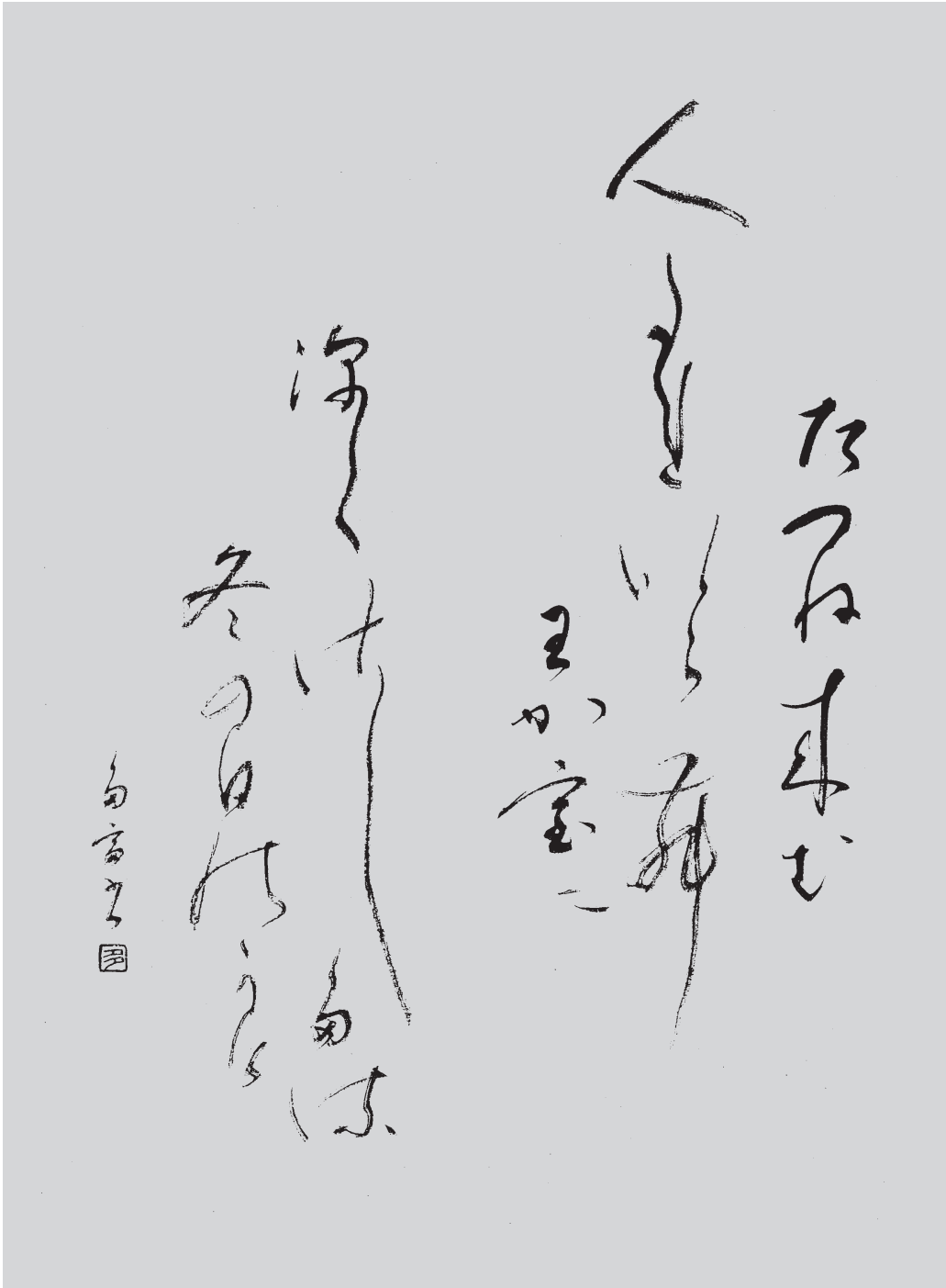
訳：厚く凍れる氷に裂けたもようは見えず、冬の短かい日あしには冷やかな光がある。

1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考

森
多富先生書

たづね来む人たれならむわが室に深くさしたる冬の日のかけ（古泉千樫）
たづね来む人多連那ら舞王か室に深久佐し多流冬の日能可介



1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円

硬筆部課題参考

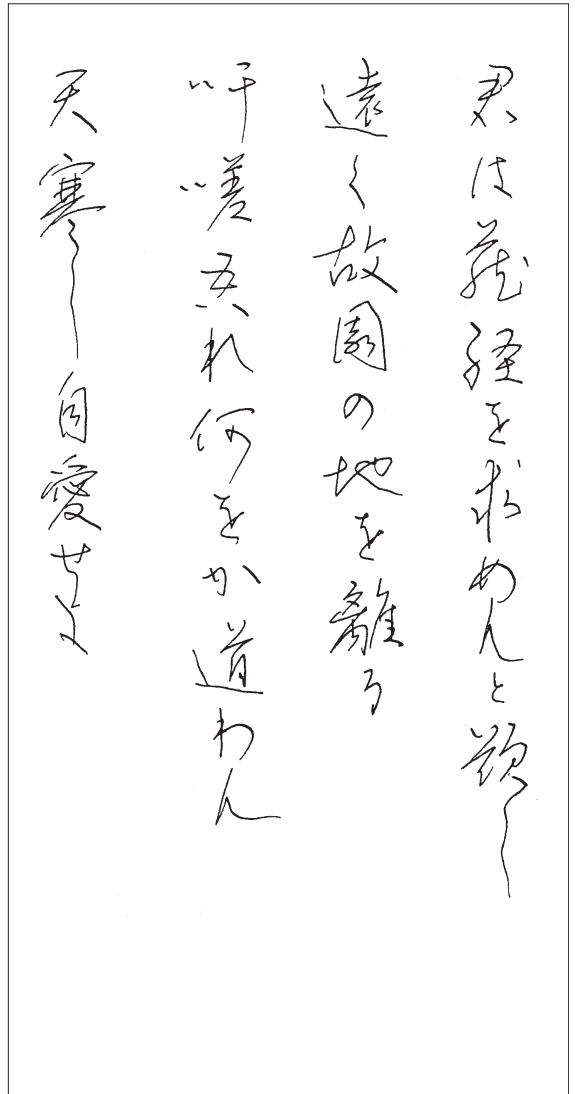
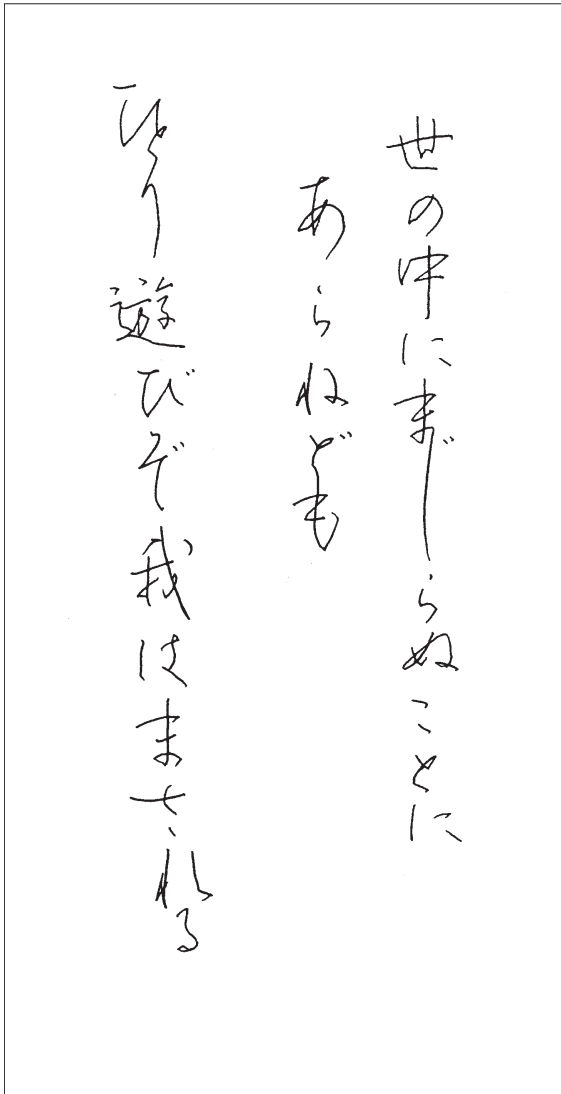
(一月二十二日締切)

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

君は蔵経を求めんと欲し
遠く故園の地を離る
吁嗟 吾れ何をか道わん
天寒し 自愛せよ

「こころのふるさと良寛」
南雲道雄

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

世の中にまじらぬことに
あらねども
ひとり遊びぞ我はまされし

良寛